

## 令和5年度第2回横須賀市再犯防止対策連絡会議 会議録（要旨）

1 日時 令和6年1月29日（月）15時から

2 場所 横須賀市消防局庁舎 災害対策本部室

### 3 出席者

委員（代理出席含む） 17名中 14名出席

事務局 市民生活課職員2名

### 4 資料

資料1 横須賀市再犯防止対策連絡会議 委員名簿

資料2 横須賀市地域福祉計画（案）

※令和6年1月16日開催 第23回（令和5年度第7回）横須賀市社会福祉審議会福祉専門分科会 配布資料

提供資料1 ハローワーク就職サポートガイド

提供資料2 はじめましてハローワークです 就労支援について

提供資料3 検察庁が取り組む入口支援（社会復帰支援・再犯防止）とは

### 5 議事

設置要綱の規定により市民生活課長が座長に就任。あいさつのち、会議の原則公開を確認して議事に移った。

#### （1）横須賀市再犯防止推進計画について

事務局から、再犯防止推進計画を包含する次期地域福祉計画のこれまでの審議経過、資料2に沿って、次期地域福祉計画の策定の背景、基本理念、基本目標、位置付け、YOKOSUKAビジョン2030及び実施計画との関係、計画期間、計画の体系及び再犯防止推進計画として定めた防犯・再犯防止に係る施策の方向性等について説明。

#### 【その他補足】

- ・地域福祉計画に包含しているため、他の計画とのバランスやボリューム等も鑑み、現状行っている施策を主に記載した内容となっている。また、昨年度までは市民生活課において再犯防止の観点だけで検討していたが、今年度、地域安全課が所管していた防犯に関する業務が市民生活課に移管されたことから、再犯も防犯をすれば抑えられるという、もっと広い視点を持って計画の内容を検討している。

#### （2）本会議への横浜地方検察庁の参加について

事務局から、横浜地方検察庁から本会議への参加について要望があり承認を諮りたいこと、承認いただいた際は、同庁横須賀支部 大野一樹支部長が委員に就任すること、所属分科会は入口支援分科会を予定していることについて説明ののち、承認が諮られ、出席者異議なく承認された。

### (3) その他意見交換

#### ① ハローワークの取り組み等について

芳賀委員から、提供資料1及び2に沿って、様々な方に対応するための設置窓口、矯正施設入所者の就労支援のため、横須賀刑務支所での個別相談、適正等に応じたマッチング、仕事選びの提案等、ハローワークが行っている取り組み等について説明。

##### 【主な意見等】

- ・令和3年における新たに受刑者になった方のうち69.3%の方が無職。社会で生きていくうえで、仕事がないことは犯罪に結びつきやすい。よって、刑務所では出所前の段階でハローワークの力を借りながら、出所からタイムラグなくロスを生じずに職を持った生活をしていただくことを調整できるように取り組んでいる。

#### ② 検察庁が取り組む入口支援について

大野横浜地方検察庁横須賀支部長から、提供資料3に沿って、検察庁が取り組む入口支援について説明。

##### 【主な意見等】

- ・資料に記されるとおり個人情報の壁がある。本会議等を通じて機関・団体間でお互いに顔の見える関係を築き、なおかつ対象の方に理解、同意をいただいて、途切れのない支援をしていくことが必要である。

#### ③ その他

- ・保護観察所の根拠法令である更生保護法が昨年12月1日から一部改正され、更生保護に関する地域援助と、刑執行終了者等に対する援助という新たな2つの施策が始まり、出所者、出院者に対する金銭的な援助や、住む場所がない方への更生保護施設の一時的支援等について、保護観察所が期間を問わずに行うことができるようになった。保護観察所にこのような制度があり、支援につなげていく方策があるということをご承知おきいただきたい。
- ・横浜少年鑑別所の令和5年の入所者数は、前年より1割ほど多かった。コロナ明けの一過性のものか、ずっと減少傾向にあった犯罪、非行の人数が増加に転じるのか、何年か経過してからでないとわからないが、社会が大きく動き出して、犯罪、非行が増えることがあったとしても、それは我々の日々の努力が報われていないとかではなく、もっと大きな社会の動きの影響も多分にあるのではないかと。引き続き連携をしながら、それぞれの機関等で取り組めることを地道に取り組むことが非常に大切である。
- ・昨年の刑法犯の認知件数について、性犯罪に関する規定が変わった刑法の一部改正もあったが、全体的には増加している。主だったものは乗り物盗や万引きなどの窃盗である。
- ・特殊詐欺は警察が力を入れていただいているため、減少傾向とまではいかないが横ばい程度である。そのかわり闇バイト的な犯罪、手荒な強盗系の犯罪等、イン

ターネットやSNSで知ったことをやってしまうというのが増えつつある。若者の生活困窮が原因にあるのではないか。その解消が再犯の防止につながっていくのではないかと感じる。

- 今年度は、子供たちが集団でつながりながら犯罪を犯していくケースが増えており、また、深い犯罪が多く、警察に相談しながら保護センター等につなぐ子供たちも多くいた。コロナの時代に育たなかった子供どうしのつながりやネットワークが、違う方向で深くなっているのではないかと心配しており、その点は児童・生徒指導で取り組んでいる。

#### **【閉会・事務連絡】**

次回会議日程については、事務局で追って調整する。